

1 月号 漢字ドリルの傍らで

学習会で漢字ドリルに取り組む子どもは多いと思います。そうすると隣で見守るスタッフとしては手持ち無沙汰になりがちです。せっかくの学習機会ですので、うまく子どもと関わりを持ちたいですね。

まずは目標・学習シートの「今日の学習内容」を書いてもらう際に、どれぐらいの分量があるか確認しましょう。1 コマで終わるか、2 コマ必要か。おおまかな時間配分を考えておきます。学習が始まったら子どもの様子を見守ります。小学校 4～6 年生が学習に集中できる時間は 20 分から 30 分程度とされています。集中力が落ちてきた頃合いをみて、声をかけてみましょう。続けたい様子であれば続けてもらい、飽きてきた様子であれば、漢字に関する以下のようなやり取りをしてみたいかがでしょう。

1.練習した漢字の「へん」と「つくり」を確認する。そのうえで、同じ「へん」や「つくり」を持つ漢字を書き出してみる。10 個書いてみるとか、スタッフと子どもが交互に書いてみるなど、ゲームっぽくやると意外に盛り上がります。

2.練習した漢字の画数を確認する。「しんによう」を 2 画と勘違いしている子どもは結構います。他に「子」(3 画)、「弓」(3 画) は間違いやすいので、その場で聞いてみるのもいいでしょう。

3.クイズ形式で、画数が一番多い漢字を書き出してもらう。教育漢字の範囲であれば、「競」「議」(小 4)「護」(小 5)が 20 画で最大です。ちなみに常用漢字まで広げると「鬱」が 29 画で最大だそうです。

4.(教科書を持っていれば) その漢字が教科書でどのような文脈で使われているか確認する。その漢字を含む文や段落を音読してもらうのもよいでしょう。

5.練習した漢字や熟語を使って短文をつくる。何か別な言葉を含めるなど、条件をつけると盛り上がる場合があります。(「〇んこドリル」人気ですよ。学習会で使用するのは憚られますが)

6.辞書をひいてみる。最近は学校でも紙の辞書をひく機会が減っているようです。会場に辞書があれば反意語や類義語、使い方などを確認してみてもよいかもしれません。

以上のやり取りを通じて、気分転換？をしたら後半に向けて再スタート。ひととおり終了したら小テスト(口頭でも、手書きでも)をしてアウトプットさせるのも有効です。

他にもいろいろな手法があるかと思います。子どものために工夫してみることは、この仕事の醍醐味の一つですね。ぜひ皆さん流のアプローチを研究してみてください。